

# がん患者就労支援アンケート

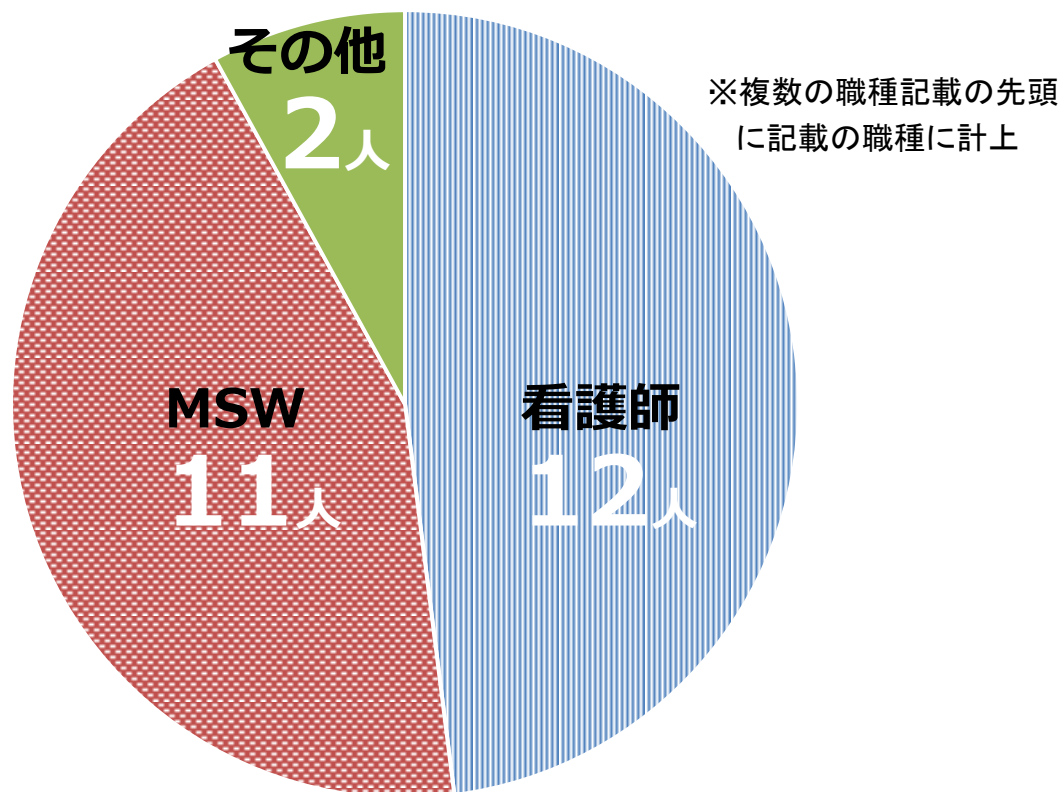
## がん相談員ワーキンググループ

平成27年8月  
熊本県健康福祉部健康局健康づくり推進課

# 1 調査対象と回答者の職種

対象：熊本県がん診療連携協議会相談支援・情報連携部会がん相談員ワーキンググループ等のがん相談員（看護師・社会福祉士・精神保健福祉士等）25名

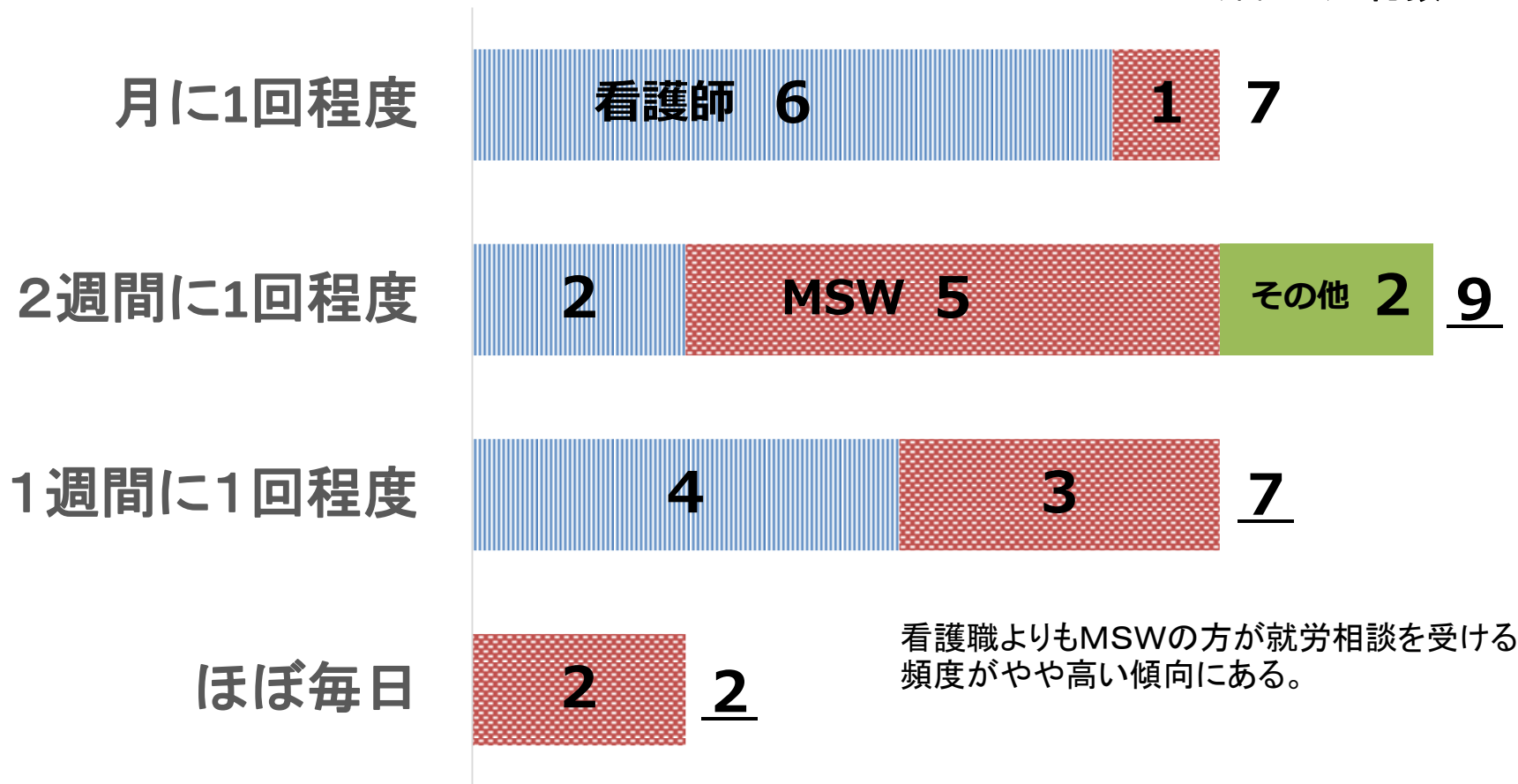
回答率：100%



## 2 就労相談の状況 (1) 相談頻度

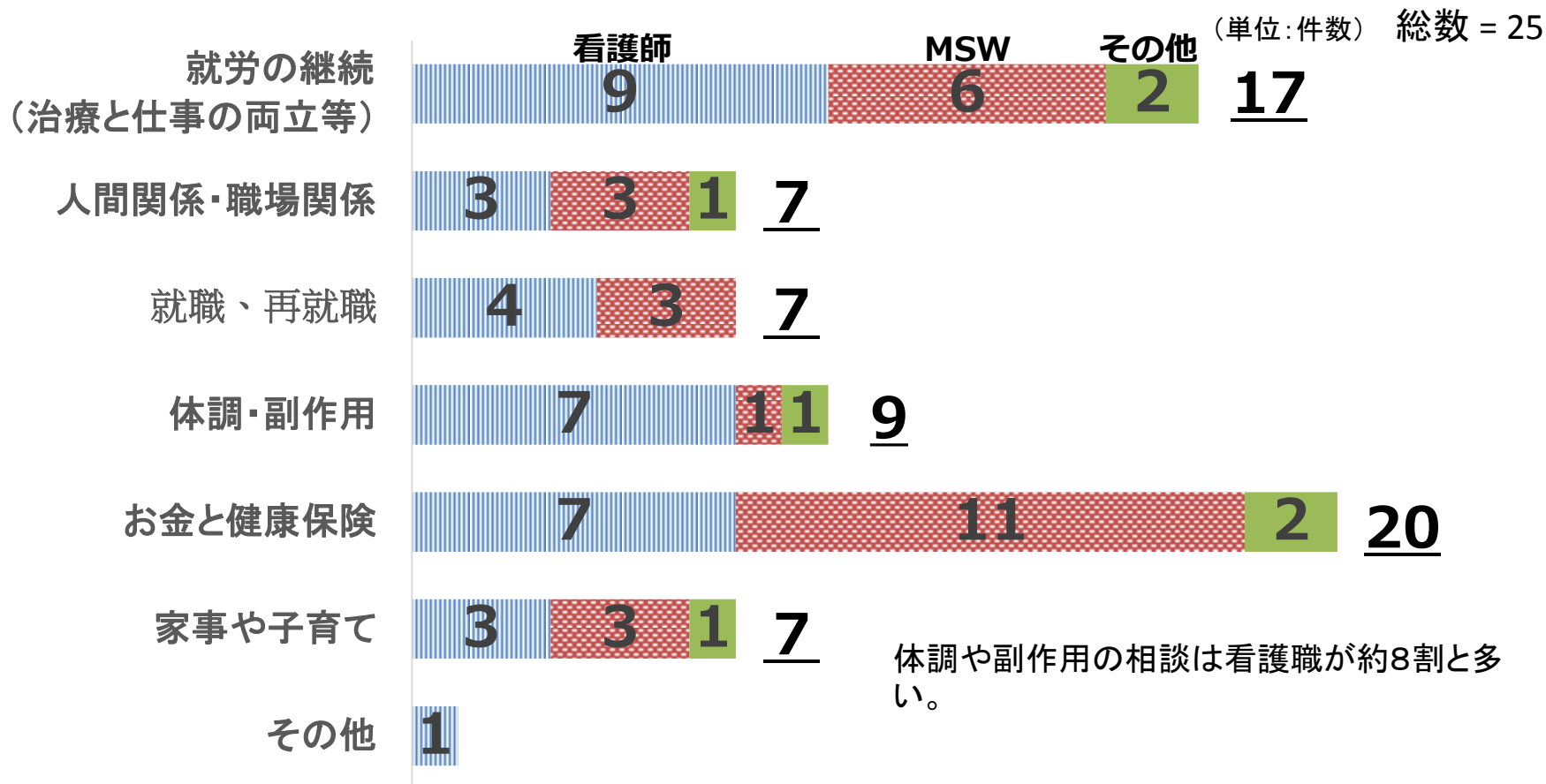
全ての相談員が就労相談を受けており、その頻度は、2週間に1回以上の方が約7割(18人/25人)であった。

(単位:人) 総数 = 25

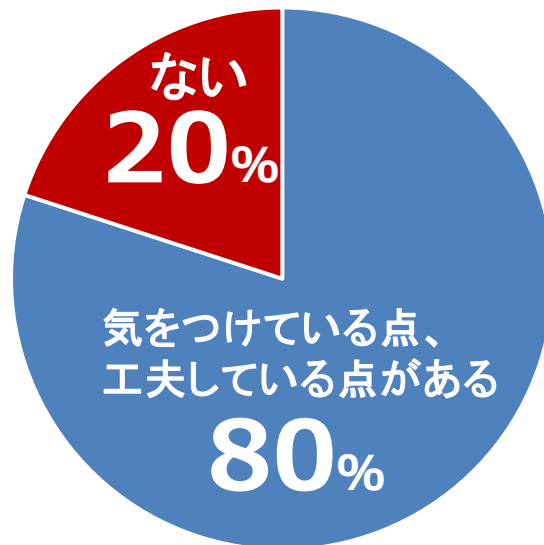


## 2 就労相談の状況 (2)相談内容

「お金と健康保険」が20件(約8割)で最も多く、「就労の継続」が17件(約7割)であった。



### 3 就労相談時に気を付けている点等



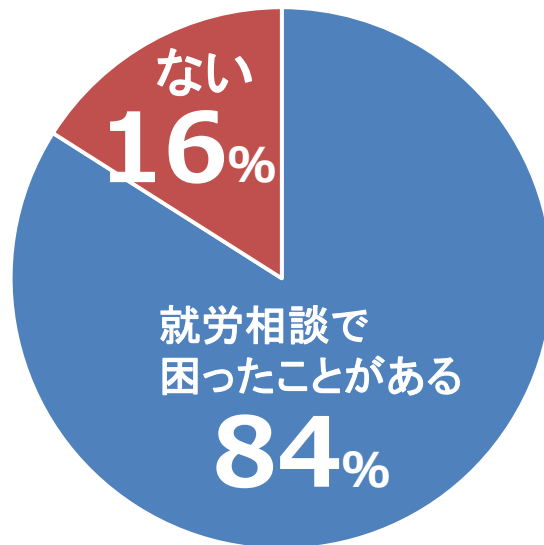
#### 相談者への説明・確認

- すぐに退職等を決断しないように説明。
- 本人の意思、働く意味などをよく聞く。
- 現在の病態、症状や治療の理解、今後の見直しを含めた有害事象を確認する。
- 本人以外の家族の思いを確認する。
- 職業、仕事内容、勤務体制、職場の地位、周囲の協力、就業規則などを確認する。

#### 相談の心構え

- 就労継続の意思を大切にする。
- 家族、経済面、仕事の独自性など、就労継続の背景にも目を向ける。
- 治療継続、モチベーションに関わるため、傾聴・受容と十分に時間をとるよう調整。
- 助言は相談者の情報だけで断定しない。
- 医師から治療スケジュール副作用などを説明するよう調整。チームで関わる。

## 4 就労相談で困ったこと



### 外部との連携

- 外部の機関との連携の手段が分からない。

### 職場への関与

- 職場に病気のことをどこまで伝えるか。
- 職場との話し合いに介入できていない。
- 辞職を促された方から職場への説得を依頼された。
- 配置換えが困難で解雇された。

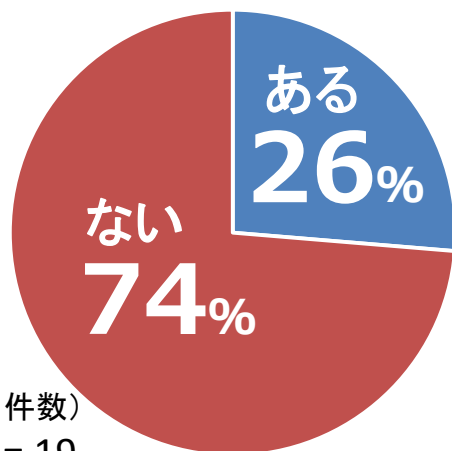
### 復職支援

- 復職支援などで共通の診断書がない。
- ハローワークに就労情報がなかった。

### その他

- 仕事を辞めることを前提に今後の予定を話をされる。
- 一方的な思いや法律で決められている以上のことを求められた。
- 自営業の方への対応が分からない。

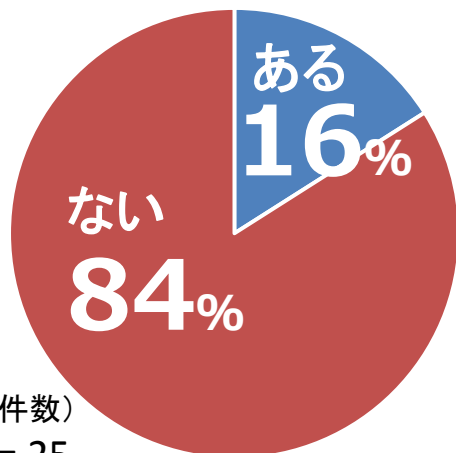
## 5 就労支援策の実施の有無



(単位: 件数)  
総数 = 19

- 院内で若者ががん相談室を週1日開催。
- 地元ハローワークと連絡を取り合うことを確認。
- がんと診断された時の声かけ(辞めないように伝える)。
- 入院手続き時に、相談できる場所が院内にあることを紙で伝えている。
- 疾病手当金や雇用保険など制度利用を積極的に説明。
- 関係制度の情報収集・知識の向上を図る。
- 他院に研修に行き、取組みを学ぶ。
- がんと就労の冊子を利用するなどしている。

## 6 外部機関との連携支援の有無

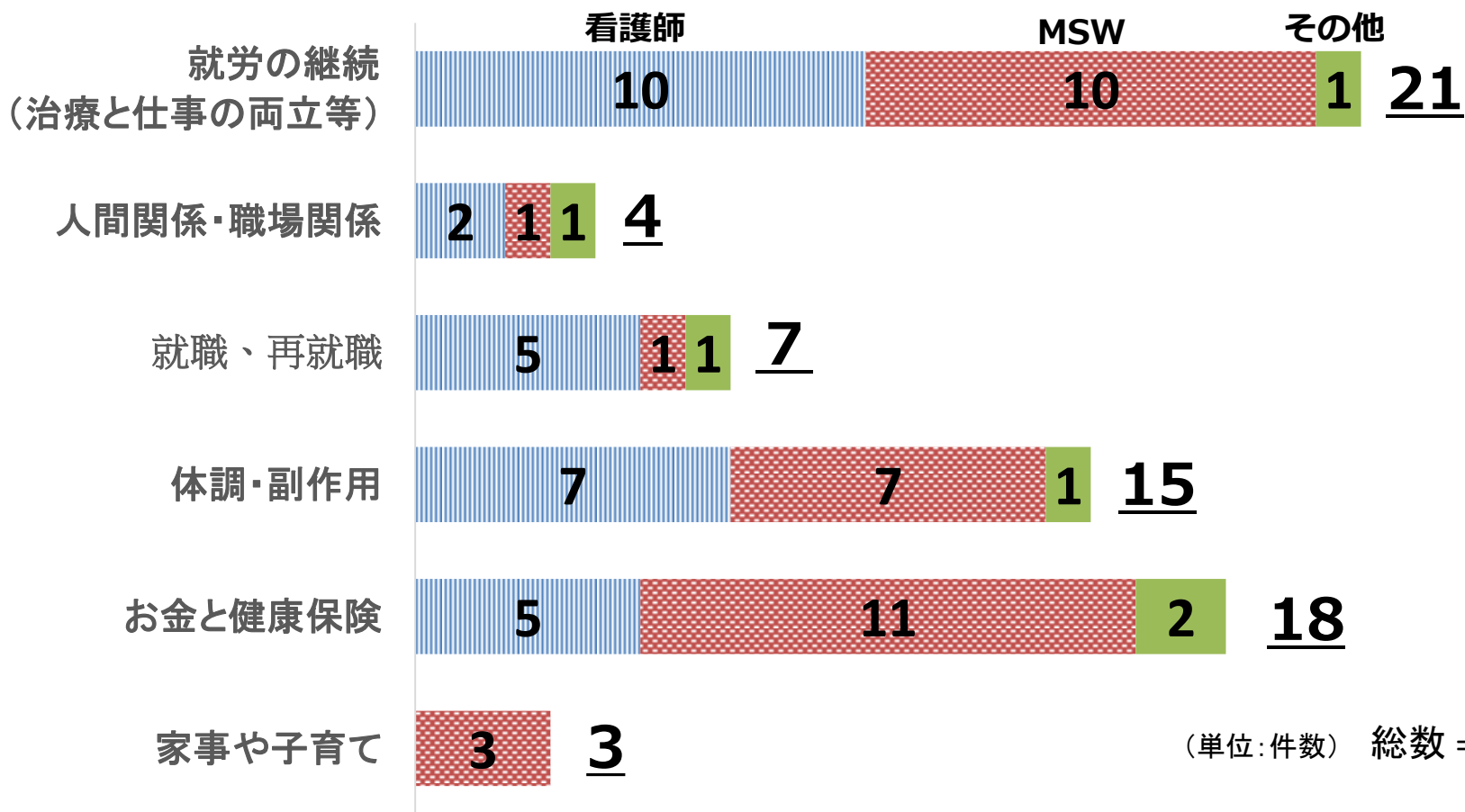


(単位: 件数)  
総数 = 25

- 社会労務士に相談したりした。
- 障害年金の手続き代行等
- ハローワークへのつなぎ等を行った。
- 再雇用となった。

# 7 就労相談における対応の必要性

「就労の継続」が21件（約8割）で最も多く、「お金と健康保険」が18件（約7割）、「体調・副作用」が15件であった。





## 8 その他意見

- 就労支援という定義(範囲)が十分な認識を得ること。
- 対応手段、サポート先の具体的内容を知りたい。
- ハローワークの窓口をどこにもっていけばいいか、ハローワークや社会保険事務所の相談員の対応のばらつき。
- 就労に関する院外で相談できる窓口をつくってもらいたい。
- 各関係機関への周知と相談・連携窓口を決めることなど、がん相談支援センターも就労相談の窓口となることを周知する必要がある。
- 相談員が相談できる場がほしい。
- 社労士やハローワークとの連携、勉強会の開催(社労士の方を含めて)
- 病院、患者、企業、地域も含めた意見交換ができる場を設定して欲しい。
- 職場へのがんに対する啓発活動
- 企業もがん患者がすぐに退職を求められない職場環境を目指してほしい。  
(治療をしながら働ける職場環境、安心して治療を続けられる職場環境)

## 9 まとめ

- がん患者等の就労相談の頻度は、**拠点病院の相談員の約7割が2週間に1回以上**であり、相談内容は「お金と健康保険」が最も多く、次に「就労の継続」であった。
- 拠点病院の相談員の約8割が相談時の対応に気を配っているが、**約8割は、外部との連携、職場への関与、復職支援等で相談時に困ったことがある**と回答。
- 一方で、**就労支援策がある拠点病院は19病院中5病院**であり、実際に外部機関との連携の経験のある相談員は約6人に1人であった。
- 現在、相談員が必要と感じている就労支援は「**就労の継続**」、「**お金と健康保険**」、「**体調・副作用**」に関することであった。

# がん患者就労支援関連アンケート

日頃からがん対策行政に対する御理解、御協力ありがとうございます。

本県における、がん患者等の就労支援に関する現状把握のため、以下のアンケートにご協力をお願いします。

※あてはまるものに☑（チェック）又はご意見等を記入ください。

Q1. 回答者についてお伺います。

- 1) 病院名 ( )  
2) 担当者 氏名 ( ) 職種 ( ) 連絡先 ( )

Q2. これまでがん患者等から就労に関する相談を受けたことがありますか。

- はい ( 回/月 程度 )  
「はい」と回答された方で、その内容はどのようなものでしたか。(重複回答可)  
 就労の継続(治療と仕事の両立等)に関する事  人間関係・職場関係に関する事  
 就職、再就職に関する事  体調・副作用に関する事  
 お金と健康保険に関する事  家事や子育てに関する事  
 その他 ( )  
 いいえ

Q3. がん患者等から就労に関する相談を受ける時に気を付けている点や工夫はありますか。

- はい → (取組 )  
 いいえ

Q4. がん患者等から就労に関する相談を受けた時に困ったことはありますか。

- ある (具体的に )  
 ない

Q5. 現在、取り組んでいるがん患者等における就労支援策はありますか。

- はい → (取組 )  
 いいえ

Q6. 実際にハローワーク等の外部機関と連携をとってがん患者等の就労支援をしたことはありますか。

- ある (具体的に )  
 ない

Q7. がん患者等の就労支援において、現場で、対応の必要性が高いと感じるものはどの分野ですか  
(3つ以内で御回答ください)。

- 就労の継続(治療と仕事の両立等)に関する事  人間関係・職場関係に関する事  
 就職、再就職に関する事  体調・副作用に関する事  
 お金と健康保険に関する事  家事や子育てに関する事  
 その他 ( )

Q8. がん相談員の対応力の強化の観点から、がん患者等の就労支援策における要望等がありましたら、ご記載ください。

ご協力ありがとうございました。